

※実際の掲載内容とは、若干異なる場合があります。

第17回岐阜県国保地域医療学会

メインテーマ：「広域化地域における地域包括医療ケア」

会場：岐阜市「ふれあい福寿会館（岐阜県県民ふれあい会館）」

開催日：平成23年11月20日(日)

参加人数：335名

研究発表演題数：52題

【開催概要】

第17回岐阜県国保地域医療学会は、西脇巨記学会長（国保上矢作病院長）のもと開催し、県内の国保診療施設、市町村、大学、介護施設などからの参加に加え、さらに今年は看護専門学校から40名余りの学生が参加した。

研究発表終了後、各会場の座長・責任者による採点をもとに優秀研究発表選考委員会において、最優秀賞1名、優秀賞3名を選出し、表彰並びに第52回全国国保地域医療学会への発表推薦を行った。

午後より特別講演として、全国国保診療施設協議会副会長 押淵徹氏（長崎県国保平戸市民病院長）による「広域化地域の中で地域包括医療・ケアを如何に展開するか」と題した講演が行われ、東日本大震災の支援活動を通して感じた地域密着の包括医療の重要性や、今後の地域医療を担う総合医育成についての取り組みを述べられた。

続いてシンポジウムでは、岐阜県国保診療施設協議会 高山哲夫会長（国保坂下病院長）と前野禎副学会長（恵那市国保岩村診療所長）の司会により進められ、「医療と関連施設との連携を如何にとっていくか～市町村合併の影響も含めて～」をテーマに、高山市長 國島芳明氏、恵那市国保串原診療所長 大島紀玖夫氏、飛騨市老人保健施設たかはら歯科衛生士 津田仁美氏、中津川市訪問看護ステーションほほえみ訪問看護師 松本文枝氏、大垣市保健センター保健師 河合美知恵氏がそれぞれ取り組みを述べられた。発表後、特別発言者の押淵副会長や会場から多くの意見をいただき、活発な討議が行われた。

優秀研究演題

もの忘れ相談外来における 看護の役割りとその取り組み

国民健康保険上矢作病院 看護部外来

看護師 ○金子俊子 小出夏子 大島ゆかり

認知症サポート医 大島紀玖夫

はじめに

当院は、岐阜・長野・愛知の県境にあり、現在過疎化の進む恵那市南部に位置する。高齢化に伴い認知症の患者は年々増加している。

当病院では、平成20年4月より1週間に1日もの忘れ相談外来を始め、医師1名が診察にあたっている。当初は1日5名ほどの受診者で始まった外来も、3年が経ち現在では15名～20名に増えている。

3年間の診察の中で、患者様・家族と接してきているが、その全体像が掴めないのが現状である。もの忘れ相談外来において看護師の役割とは何か？認知症高齢者を正しく理解するには、本人のこれまでの暮らし、生活情報、疾病情報、家族の思いが重要になる。限られた診察時間の中で、どの様に情報収集するか、信頼関係をつくるか、その人にあった援助が提供できるかが問題であった。そこで以前から検討していたセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)を看護のアセスメントツールとし、認知症の人がその人らしく日々穏やかに過ごせることを目標に取り組んだので報告する。

センター方式とは

正式名称を「認知症の人のための、ケアマネジメントセンター方式」という。本人を正しく理解するために、あらゆる情報を誰でも記入できるようにつくられたシートが16枚用意されている。本人と家族を中心に、ケア関係者が共通シートを使って、互いの思いやアイデアを出し合いながら、本人と家族のより良い暮らしを共に考えていく方法である。

方法

センター方式の目的を、プライバシー守秘を前提とした上で、主治医から説明してもらおう。16枚の中から基本情報シート、暮らしの情報シート、心身の情報シートに加え、看護師で作成した、家での様子を記入するフォローシート、施設を利用している人には、施設サービスシートを渡し、次回診察日までに記入してきてもらう。

結果

図1は86歳女性、アルツハイマー型認知症患者の暮らしの情報シートで、家族の思い、悩み、要望、願いが記入できるシートである。長男がキーパーソンであるが、嫁、長女も時間が許せば長男の補助をしたいという意思が書か

れている。このシートからは、本人に対する介護体制は整っている反面、介護人の健康状態、精神的ストレスを見守る必要があるとアセスメントした。その他のシートも総合して、家族の本人に対する思いや介護力の現状を把握することができた。またシートから得られた情報を、診察前に医師に伝えることで、限られた診察時間を有効に使うことができた。

B-1 暮らしの情報(私の家族シート) 名前 _____ 記入日: 20 年 月 日 / 記載者 _____

◎私を支えてくれる家族です。私の家族の思いを聞いてください。

私の家族・親族 ※私がその人を呼ぶ時の呼称も書いてください。同居は囲んでください。

(旧姓: _____)

□ 男性
○ 女性
● 死亡
※ 主介護者(男)
◎ 主介護者(女)
△ 副介護者(男)
⊖ 副介護者(女)
= 婚姻関係

私を支えてくれる家族・親族							
氏名	続柄	年齢	役割会える頻度	本人や介護に 対する思い	受けているサビ スへの要望	最期はこうして 迎えさせたい	私の願いや支援して 欲しいこと
A	長男	60	主介護者 毎日後泊引 ている	できるだけ自 分が生まれた 自宅で過ごす 時間を大事に したやりたい	丁寧な接し方 もあってありが たい	まだあまり考 えていない	●私が言ったこと △家族が言ったこと ○ケアが実行したこと、 ケアのヒントやアイデア
B	長男の嫁	60	必要に応じて Aを補助				○自宅にいる時は落ち 着いている
C	長女	58	月1~2回				

私の家族からの悩み・要望・願い(家族の生活、介護、経済面、人間関係など)

氏名	続柄	私の家族自身の、暮らしに関する悩み・要望・願い	私の願いや支援して 欲しいこと
A	長男	・自今のできる条件の中で、できるだけのことしたい。	●私が言ったこと △家族が言ったこと ○ケアが実行したこと、 ケアのヒントやアイデア
B	長男の嫁	・仕事をしているので限界があるが、できる限りAを補助 したい。	
C	長女	・遠くに嫁いでいるのでなかなか行けな いが、行ける時 はまとめて掃除、整理をして補助したい。	

成年後見制度の利用: 有・無(利用の緊急性 有・無) 地域福祉権利擁護事業の利用: 有・無(利用の緊急性 有・無)

★プライバシー・個人情報の保護を徹底してください。

図1 86歳女性、アルツハイマー型認知症患者の暮らしの情報シート

考察

今回、センター方式を通して、認知症の方と家族の状態や意向、そして数多くのエピソードも知ることができた。シートに記入されている認知症の方の行動や思い、言動の裏には不安や真のニーズがあることをしばしば教えられた。本人の持てる力を十分発揮できる援助を行うには、認知症高齢者を正しく理解するのが大切だと実感した。認知症という長い経過をできるだけその人らしい生き方ができるよう、家族をはじめ、ケア関係者とともセンター方式を通して、これからも看護の視点に立った援助方法を考えていきたい。センター方式を行うことにより、医療職と介護職のネットワークをつなぎ、地域包括ケアの充実を目指していきたい。